

平成26年度第5回秋田県環境影響評価審査会

1. 日 時 平成26年12月16日(火) 13:00から15:20まで
2. 場 所 ルポールみずほ
3. 出席委員 及川洋委員(会長)、井上正鉄委員、井上みずき委員、小笠原暁委員、
菊地英治委員、佐藤悟委員、土田鐘子委員、藤田直子委員

4. 議 事

(1) 会長の選任等について

(2) 諮問事項

諮問第9号 エコシステム花岡株式会社廃棄物最終処分場新設事業に係る環境影響評価方法書について

5. 議事の概要

(1) 会長の選任等について

秋田県環境影響評価条例第39条第2項の規定による委員の互選により、会長には及川洋委員が選任された。また、会長職務代理者には、菊地英治委員が会長により指名された。

(2) 諮問事項について

知事から諮問された案件について審議し、その結果を答申することとした。

委員	最初に何メーターか掘って、最終的には埋めるということであるが、最終処分のごみというのはもちろん一気に出てくるというわけではなく、少しずつ埋めていくことになると思う。操業以降、ごみが搬入されて、次のごみが搬入されるまでの間は、どのような処理をしているのかを教えていただきたい。
事業者	埋立てに当っては、これから計画書や実施設計をある程度作っていくが、基本的に持ち込んだごみについては、水平な状態に押並べる、敷均し転圧を早期に行う。表面の水分等が飛んで乾燥して飛散することも考えられるので、その場合には散水して飛散を防止する。あくまでも水平で埋め立てていくことにしている。
委員	上から散水しても乾く可能性もあると思うし、風が吹いたりするというのもあると思うが、シートをかけるというようなことはしないのか。
事業者	埋立て面積が約4.6haと広範囲であり、シートをかけるのは現実的ではない。焼却灰や飛灰であるので、敷均転圧を行い、ある程度水を朝晩撒けば今現在の処分場でも大体飛散はしていないので、その形でやらせていただきたいと思っている。

委員 上から圧縮して、水をかけて飛散しないようにしている状況の予測については、方法書に記載しているのか。

事業者 記載している。

委員 哺乳類や鳥類、両生類等は、大体各期に1回は調査しているが、小型哺乳類及びコウモリ類は、春季から秋季までで2回であり、ほかのものに比べると回数が少ないかなと思う。あの辺は穴がぼこぼこ空いて、コウモリ類でけっこう希少なものが出てくると思うが、どうか。

事業者 まず、小型哺乳類については、繁殖期が北の部分であれば、大体が1回がだらだらと続くパターンが多いことを、この地域周辺を調査して分かってきている。それで個体数が一番増えるのは秋になるということが、今までの調査結果から出ているため、夏から秋にかけて1回と秋1回やれば、ほぼ種数は把握できると考えている。

委員 この近くの芝谷地は天然記念物として明記されている。2 km以上離れていると記載されているが、すぐそばに長走風穴があり、そこにもウサギコウモリが人工の洞窟の中に生息している。2 kmくらいであれば、夜間も平気で飛ぶと思われるし、また坑道の小さな穴の中にも大変貴重なコウモリであるウサギコウモリが生息している可能性があるため、十分注意して調査していただきたい

事業者 イタチはトラップ調査をする予定はない。フィールドサイン、目撃によるほか、カメラ・ビデオ設置して確認することを考えている。

委員 それから、イタチの調査はどのようなトラップを使って行うのか。

事業者 トラップは使わないのか。

事業者 今まで行ってきた経験から、イタチの場合にはフィールドサイン等で、かなり把握できている。取りあえずイタチを対象にはしていないが、シャーマントラップにイタチがかかることがある。シャーマントラップは利用することになっているので、それに入る場合もある。

委員 それも結構だが、竹の筒を利用したイタチ専用のトラップもあり、活用できるのではないかと思う。

事業者 検討する。

委員 水生動物の中に魚類調査は入っているのか。

事業者 含まれている。

委員 この辺りは熟知しており、上流の方に行くと魚類が生息していると思うが、この現場の辺りではあまり望めないと思う。

事業者 非常に水量が少なく、水質的にもあまり魚類が生息しておらず、藻等は少ない。

委員 資料に放流とあるが、放流した水は、結果的に長木川に入って米代川に入るのか。

事業者 そういうことになる。

委員 子どもの頃、米代川では、雨が降るたびに鉍毒が流れて来て、魚がぷかぷか浮くという現象を目の当たりにしている。そういうことが絶対起きないように十分配慮して、調査あるいは施工していただきたい。

事業者 慎重に調査していく。

委員 要約書の19頁にホンカジカと記載しているが、ホンカジカは希少種か。この出典は何か。

事業者 環境省のマッピング調査で、主要な野生動物ということで、いわゆるメッシュの中に入ってきているものを記載している。

委員 秋田県ではニホンカジカは生息していなかった。ただ、最近増えてきて、この近辺にも出没している。ホンカジカとニホンカジカいずれの表記が正しいのか。

事業者 通常はニホンカジカと表記するので、修正する。

委員 白神山地の中にも入ったという記録が残されているということで、この近辺にもごく少数生息していると思われることから、ホンカジカを貴重種の指定を受けていると表現してあるが、除くべきではないか。

事業者 わかった。

委員 大館から小坂に向かう日沿道の工事の際に、あの地域は鉍山地帯で有害な鉍物も出てくるからということで、遮水シートで覆って封じ込めていると思うが、今回の事業箇所ですら掘下げる範囲の中に、そういう昔の鉍山に関係したような

鉍物類が入っているとか、そういう調査はしているのか。

事業者　この計画の前の地質調査により、丹念に地表の方は確認してきており、地質的な時代についても検討している。秋田県の図幅によると、花岡地帯は黒鉍の鉍山であるが、ここはその時代よりもかなり新しい石が出ている地域で、その石には鉍化はない。グリーンタフという属性作用がある場所であり、ちょっと緑っぽいような感じになる。そういう意味では、鉍化変質はないということを確認している。岩石としてはアルカリ性を示すような岩石であるという特徴はつかまえている。

委員　この地域のどこから掘ってもそうなのか。

事業者　有害物質が出てくるという懸念は今のところなく、非常にいい場所を選んだと考えている。

委員　むしろ心配なのは一気に20m掘って、処分場がいっぱいになる前に風化等で崩れてこないかが心配だ。

事業者　そういう意味で、掘ってからコンクリートの被覆等は速やかに行う。

委員　それだと周辺に浸透水が入って水圧がかかったら、むしろかえって危ない。

事業者　透水性も確認しており、難透水層であるため、浸水性はないという状況も間違いない、そういう影響がかなり低いところではないかという調査結果がでてい

委員　鉍山から米代川の河口までパイプラインで排水を運んでいた。現在は流していないと思うが、その跡地は現在どうなっているのか。

事業者　すべて撤去しているわけではないが、出来るものはすべて撤去している。また、場所がわかっているものについては、それを掘り出してということもしているが、埋設になったものはその中で充填にして処理をしたと聞いている。なお、生活道路として地元の住民から要望があった所は残したと聞いている。

委員　生態系動物・植物について、施設ごとに点在するように調査範囲が出てきているようだが、これは全部の範囲をまとめて調査するのではなく、点在して調査することが、動物や生態系に対して妥当なのか。

事業者　生物によって、行動圏が異なってくるが、植物の場合は移動しないので開発を行うエリア、その周辺に調査範囲を設定して行うということである。哺乳類や鳥等は行動圏が広いので、広く調査地点を設定しており、この地域の動物の把握は

これでカバー出来ていると考えている。

委員

セシウムについては、全国のどこの処理場でも非常に神経質な問題になっており、反対意見が出ている所もまだたくさんあると聞いている。今回は意見の中に具体的なセシウム、例えば400ベクレル以下であったり、あるいは100ベクレル以下を基準として受けるということであるが、この単位はベクレル/kgであると思うので確認していただきたい。

万全な管理に努めるという見解になっているが、今後どのような形で付近の住民の方々に説明していくのかということについて、お聞かせいただきたい。

事業者

単位の方は、後ほど確認する。

管理の方法は、既に施設の入場門のところに検知器が固定で設置しており、トラックは全てここを通過して出入りを全部確認する。そこで何らかの異常値が出れば止めて、施設の入り口で係員が点検することとしている。さらに、事前に分析表を全部もらうので、その時点で問題がありそうなものは全部受入を断ることとしている。これについては今後も継続する。

委員

この処分場は、一気に全部深さ20m、3haを掘ってしまうということのようだが。

事業者

20mまで掘下げて、法面はすべてモルタル吹付けで表面があまり劣化しないように保護する。シートは、耐候性の不織布でも耐用年数がメーカー保証で7年くらいまでしかないので、当面操業していくのに支障のない2段目までを一度貼り、崩れるという兆候が見られれば、補修した後もう一度シートを貼り足していくことを考えている。

委員

一気に作るのではなく、最初に右半分を作って、次に左というのはできないのか。

事業者

その場合だと、境目の面での遮水性が確保できないような状態になるので難しい。

委員

セシウムはカリウムと大変よく似た性質を持っていて、水の中で100ベクレルというのはまずあり得ない。もしあるとすれば土中か、SSにくっついたものが検出されると思う。今後、沈砂池の砂や浸出水の濁質は圧縮してケーキにすると思うが、そのケーキの値が高くなる可能性が十分考えられるので、それを十分注意していただきたい。

委員

昔、鉱さいの沈殿池の一番下にある、人が通れるくらいのトンネルによく入ったことがあるが、これもそのようにはできないのか。人が通ってどこから漏れているかとか等を後々点検する時に役に立つと思う。

事業者

2枚のシートを張った下には地下水等があるため、人が入れる空間を作ろうとすればちょっと無理がある。20m掘り込んだ場合には換気の問題も出てくる。今回の場合、シートとシート、シートの下に電極を設置し、電氣的にシートが破れていないか、漏水があるかないかを検知するシステムを導入する予定であるので、人がいかなくても一応5m以内の範囲であれば、漏水箇所が特定出来る。